◇集 会 報 告◇

	日	男	女	計
教会学校子供	18	4	9	13
大人	18	7	8	15
成人科	18	0	2	2
主日礼拝	18	34	72	106
Bible 講読会	19	0	4	4
旧約を読む会	20	2	10	12
本郷台集会	21	2	6	8
入門講座	22	4	7	11

◇牧師室より◇

なか伝道所の渡辺英俊先生から、ご自身が最後の著作になるであろうと言われる「旅人の時代に向かって 21 世紀の宣教と神学」を贈っていただいた。渡辺神学の総決算と思われる力作である。

キリスト教は聖書を根拠にしている。その聖書は文献として分析され、問答無用の「神の言葉」ではなくなった。先生は更に、どの「場」に立って読むかが決定的なことであると力説している。日本の中産・インテリ階級の多い教会人は観念的に抽象化して読んでいる。それは、現実に起こっている諸問題を見て見ぬ振りをし、口先では「愛」を語りつつも相手の向うずねを蹴っとばす行為をしていると手厳しく批判している。

先生は、寿町という「寄せ場」に身を置き、権利を奪われ旅人であることを強いられた移住労働者たちの現実と直面している。その「場」から見た、搾取する側と搾取される側の社会構造を描き出している。

先生は、ご自分の「場」から聖書を読み直し、現代を透視している。主エスは差別・抑圧されている者の側に立って、彼らの人間回復を宣言され、そのように生きた。それが十字架の死につながった。パウロの福音宣教は、ローマ帝国の都市化した社会に流れ込んできた下層民が民族の枠を超えて「メシ」を食う共同体作りの運動であった。このような視点から、搾取されている者が解放される宣教が 21 世紀の神学であると語っている。

旧約の預言者たちは個人の罪はもとより、国家・社会の構造的な罪を弾劾した。その弾劾の言葉は切り捨てるだけではなく、自分自身も弾劾されているという涙を内包している。それは共通の「場」に立たざるを得ない者の痛みである。先生も、批判する中産・インテリ階級の教会人から抜けられない。そこに深いうめきがあろう。私は、そのうめきを共有できるのではないかと思っている。先生が批判してやまない机上の行動しない牧師ではあるけれど。

週　　報

2001 年 2 月 25 日　　降誕節第 9 主日

巻 21　　48 号

2000 年度　教会主題

「主イエスに従う」

聖　句　わたしの後に従いたい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのため、また福音のために命を失う者は、それを救うのである。

マルコによる福音書　8 章 34 節 b －35 節

目　標
1. 生活を整えて礼拝、諸集会を守る。
2. 十字架の福音に従い、これを宣教する。
3. 教会創立 20 周年記念を祝い、将来を語り合う。

日本キリスト教団　**横浜港南台教会**

横浜市港南区港南台 7 丁目 8－29

郵便番号　234－0054

電　　話　045－833－5323

F A X　045－833－6616

振　　替　00290－4－13994

牧　師　秋　吉　隆　雄

伝道師　斎　藤　忠　雄